

+ 日赤ふくしま

第48号



日本赤十字社
マスコットキャラクター ハートワッペン



負傷した子どもを搬送するパレスチナ赤新月社のスタッフ

世界の人道危機と国際人道法

2023年10月7日以降、イスラエルとガザ地区での武力衝突が激化して以来、多くの民間人を巻き込み、人道状況は深刻度を増しています。特に女性・子ども・高齢者・けがや病気を抱えた民間人が、今なお過酷な状況下にあります。また、ウクライナ人道危機においても、まもなく2年が経過する現在も解決の糸口が見えていません。

戦時のルールである国際人道法は、民間人を戦闘に巻き込むこと、人質を取ることを禁じています。赤十字は、民間人や医療・支援従事者、病院を含む民用物の保護や人質解放に加えて、安全に継続して人道支援が届けられるよう、**紛争当事者に国際人道法を守るよう強く求めています。**

赤十字は、人道・公平など赤十字の原則に基づき、中立的な立場から支援を提供します。イスラエル・ガザ人道危機においても、パレスチナ赤新月社とイスラエル・ダビデの赤盾社（イスラエルの赤十字社）、赤十字国際委員会（ICRC）のスタッフやボランティアは最前線で救援活動を続けています。 ※令和5年12月現在



©ウクライナ赤十字社

厳しい状況に苦しむ女性を元気づけるウクライナ赤十字のボランティア

赤十字の救急車や救急センターが攻撃に巻き込まれる事態も発生、イスラエル・ダビデの赤盾社では3人、パレスチナ赤新月社では4人の職員が死亡。

「私たちは単なる医療従事者ではなく、あなたの隣人であり、友人であり、家族です。私たちはガザに留まり、命を救うために全力を尽くしています。私たちは、すべての当事者が国際人道法を遵守し、医療従事者の安全を守ることを求めています。」（パレスチナ赤新月社Facebookより）



イスラエル・ガザ
人道危機速報

救いを託されている。



日本赤十字社 福島県支部
Japanese Red Cross Society

台風第13号大雨被害に対する支援

台風第13号の影響で9月8日から9日にかけて太平洋側で大雨となり、河川の氾濫や土砂災害が発生し、いわき市、南相馬市などで大きな被害を受けました。

日赤福島県支部では迅速な情報の収集に努め、いわき市へ職員を派遣し救援物資を届けたほか、あん摩マッサージ・はり・きゅう赤十字奉仕団によるマッサージ等を実施しました。



毛布、バスタオル、緊急セット、安眠セット、段ボールベッドを配布



避難所の体育館のステージ上でマッサージを実施

赤十字の防災プログラムを実施してみませんか？

災害時に「大切ないのちを守る」ための考え方や行動を学ぶ防災プログラムを、県内各地で開催しています。学校・町内会・企業・団体様へ指導員を派遣し、防災にまつわる講演、非常食体験、ハザードマップを使った図上訓練、避難所運営ゲームなど、幅広い内容からお選びいただけます。

詳しくは事業推進課（TEL 024-545-7996）までお問合せください。



炊飯袋による非常炊き出し（ハイゼックス炊飯）体験



ぼうさいまちがいさがし「きけんはっけん!」を保育所で実施



青少年赤十字(JRC)の交流事業



8月 小・中・高校生合同JRCトレーニングセンター（桑折町）



10月 北海道・東北ブロック高校青少年赤十字交流会（福島市）



11月 栃木県高校JRCとの合同研修会（いわき市）



11月 タイJRCメンバーの受入（福島東高校で書道を体験）

赤十字が行う活動は、皆さまから寄せいただいた活動資金とボランティアで支えられています。皆さまのご支援により、災害救護をはじめ赤十字の活動を行えますことに心より感謝申し上げます。